

# 子育てママ支えたい

大槌町の26歳の女性2人が、町内で働く若者や子育て世代を支援しようと、任意団体「Tsubomi(つぼみ)」として活動を始めた。震災で被災し人口流出が深刻な町で、若者目線が地域の活性化に取り組みたいと、中学からの同級生が手を取り立ち上がった。2人は母親らが集えるカフェの開設なども目指し、一歩ずつ前へ進む決意だ。

2人の女性は、代表の村上彩乃さんと副代表の菅谷安美さん(ともに同町小釜)。同町で被災地支援に当たっているNPO法人を4月末に辞め、5月に団体をつくった。大槌中時代からの親友で、村上さんは東京都内の専門学校を卒業後に帰郷。菅谷さんは仙台市

## 大槌・26歳女性2人の団体

### 「Tsubomi」始動

#### カフェ開設目指す

の大学を卒業し、会社勤務を経て地元に戻った。現在は、以前働いていた



NPO法人から委託された事業を中心に月に6回の活動を実施。被災地の母親や妊婦のストレスを少しでも和らげようと、ママサロンを開いているほか、仮設住宅に出向き、楽器演奏なども行っている。

「Tsubomi」が企画した親子英会話教室に参加した同町小釜の主婦菊池祐子さん(41)は「大槌には子どもと一緒に参加するイベントが少ない。次回も出席して、参加者と交流を深めたい」と喜ぶ。

今後は英会話教室を続けるほか、子育てママらが集えるカフェを開き、女性が働く場にもしたいと夢を描く。団体名には、被災した大槌で今、心につぼみを持ち、今後花を開かせたいとの願いを込めた。

自身も2人の子どもを育てる村上代表は「少子化や子育ての問題は日本全体の問題。母親の就労環境や女性の社会進出のきっかけをつくり、大槌から発信していきたい」と意気込む。



#### 5千発の花火に復興の思い重ね

節目の第10回大会

#### 山田

山田町商工会青年部(間瀬慶蔵部長)主催の第10回

やまだの花火大会は14日夜、同町境田町の山田漁港周辺で開かれた。約5千発の大輪が海に反射し、住民や帰宅客は力強い花火に復興への思いを重ねた。

東日本大震災の犠牲者、行方不明者へ黙とうをささげた後、鎮魂の願いを込めて着色のない花火、和火を10発上げた。その後の打ち

上げは「鎮魂」から進行し、復興の空を彩った。

同町山田の山崎ちゃん(5)の家族毎年見に来ているではないけど素晴らしい花火で、感動し良かった」と声を盛間瀬部長は「心持ち続けている人っている。震災の記憶は消えないとの前に向かって進みたいを込めた」と話

移転新築の村給食センター

2学期が

みに地元を訪れるような行事にしていきたい」と喜んだ。

志が改めて企画。15年からはナニヤドヤラ保存団体の中野ふじの会が主催して

